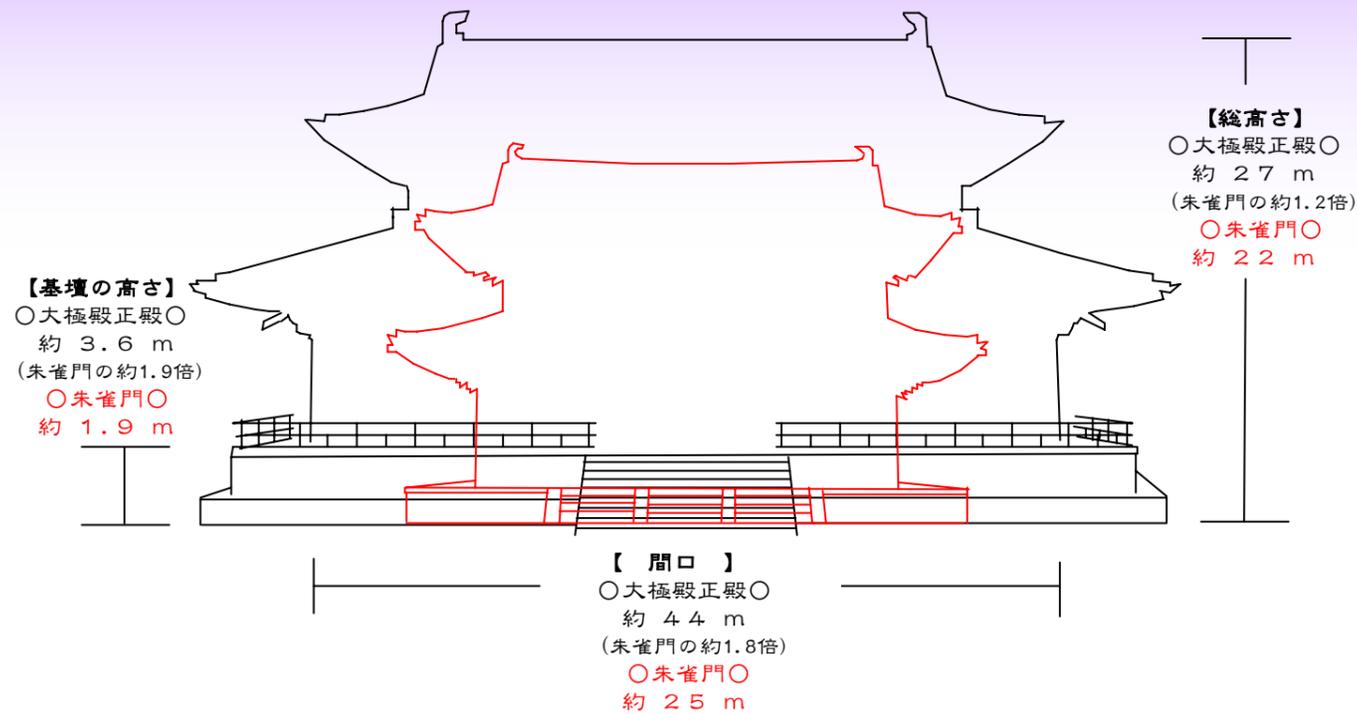
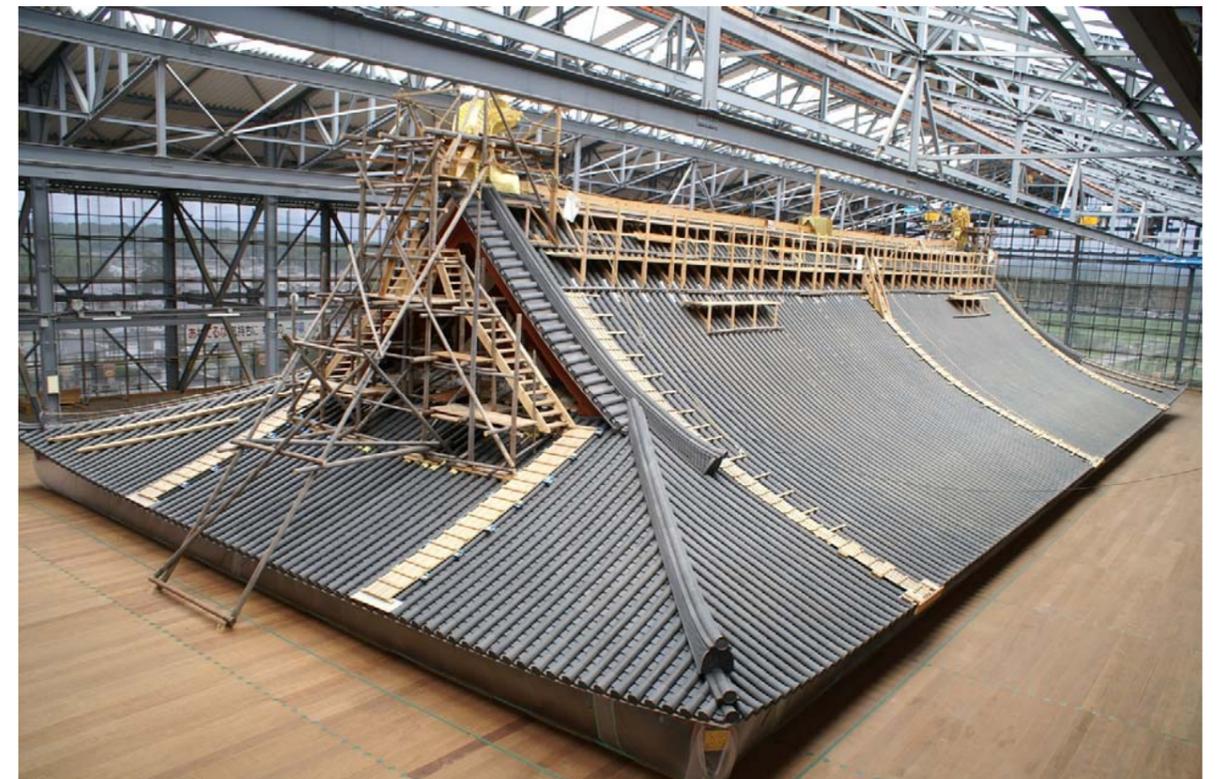
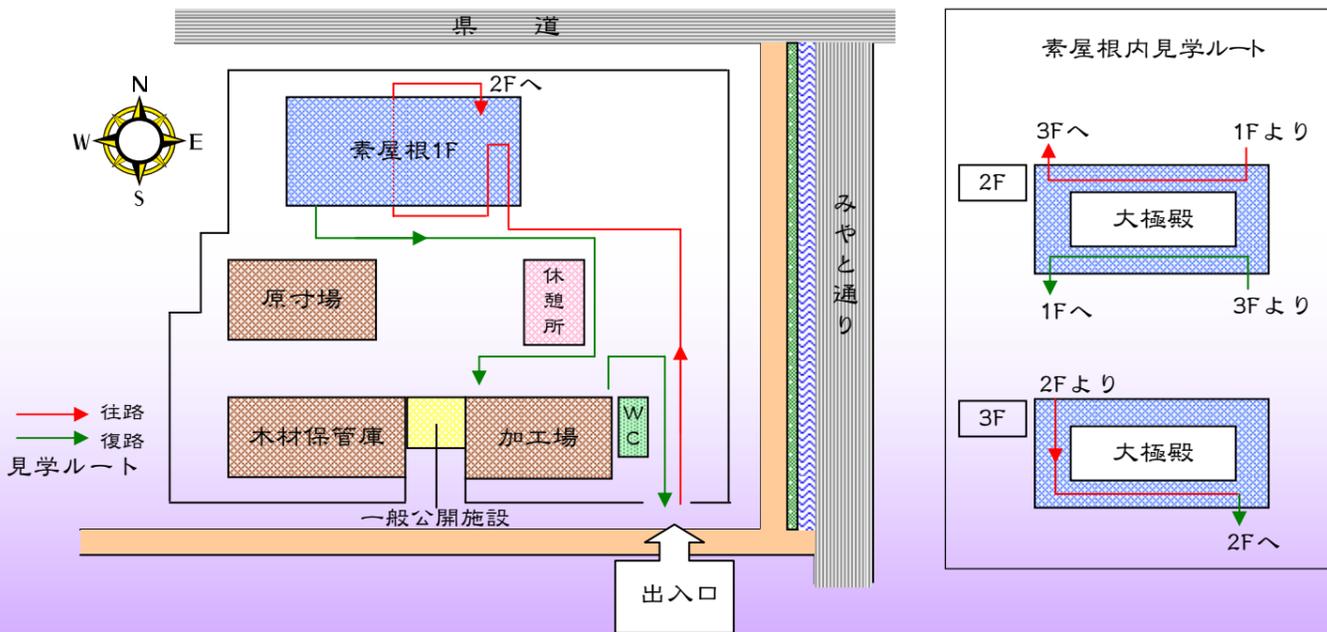


第一次大極殿正殿と朱雀門の比較



現場内 見学ルート



平城遷都1300年記念

特別史跡 平城宮跡

だいがくでんせい でん

第一次大極殿正殿復原整備

特別公開 (第7回・最終回)

平成20年 9月21日 (日) ~ 9月23日 (火)

- 主催■ 文化庁 平城遷都1300年記念事業協会
- 共催■ 奈良県 奈良市
- 協力■ 文部科学省
 奈良県教育委員会 奈良市教育委員会
 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
 (財)文化財建造物保存技術協会
 (社)平城宮跡保存協力会
 平城宮跡第一次大極殿正殿復原工事
 竹中・淺沼・森本特定建設工事共同企業体
 特定非営利活動法人 平城宮跡サポートネットワーク
 日本伝統瓦技術保存会

■制作■ 平城遷都1300年記念事業協会



木材の組立工程



平成16年 3月



7月
(第1回特別公開開催)



平成17年 5月
(第2回特別公開開催)



11月
(第3回特別公開開催)



平成18年 4月
(第4回特別公開開催)



10月



11月
(第5回特別公開開催)



平成19年 10月



11月
(第6回特別公開開催)



平成20年 7月



7月

平城宮跡第一次大極殿正殿復原は、当時の奈良国立文化財研究所(現独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所)において、平城宮跡におけるそれまでの研究成果を基に、平成10年度から平成12年度までの3年間で実施設計を行いました。

第一次大極殿正殿復原整備事業は、調査研究の成果を基に奈良時代様式(意匠・構造・材料・工法等)の史実に基づく厳正な復原を目指しています。

『奈良時代様式』での厳正な復原の実施のためには、建築基準法・消防法等の現行の建設関係法令等に適合させるとともに、特別史跡平城宮跡の埋蔵文化財の保護・保存のための処置を実施しています。

—正殿完成予想CG—

埋蔵文化財に対する保護：遺構面上部への盛土(約80cm)

現行法規に対応する設備：免震装置の設置(基壇内部)
：自動火災報知設備の設置
：屋外消火栓の設置
：避雷設備の設置



木材の調達

復原工事で使用する木材は国内産のヒノキ及びケヤキで主に紀伊半島周産産のものが搬入されています。



立木伐採状況

木材の組立

加工された木材は素屋根内に運ばれ組み立てられます。



初重扉板 組立

木材の加工

木材は粗加工された状態で搬入され、木材保管庫で検収・保管・乾燥させた後、奈良時代当時の伝統工法により仕上げが施されます。



平桁 やりがんな仕上げ

組立工事の進捗状況

- ● ● 第1回特別公開時(平成16年 7月)
- ● ● 第2回特別公開時(平成17年 5月)
- ● ● 第3回特別公開時(平成17年11月)
- ● ● 第4回特別公開時(平成18年 4月)
- ● ● 第5回特別公開時(平成18年11月)
- ● ● 第6回特別公開時〔平成19年11月〕

※ 現在、高欄及び扉板以外の組立がほぼ完了しています。

塗装工事

主要木部には丹土を塗装し、窓に取付ける連子には、緑青を塗装します。また、天井などの建物内部は古代技法に倣って文様彩色を施します。



高欄連子 緑青塗装

左官工事

初重の土壁は、木小舞により下地を組み、良質な水田の上土にわらすを加えて、約1年以上ねかせて造った土を何層にも塗り重ね漆喰塗りで仕上げる伝統土壁としています。



土壁 裏返し

金属工事

二重大棟には鴟尾や中央飾りが載り、各垂木先端の木口には透かし彫り金具などの「飾金具」と呼ばれる様々な種類の金具が取付けられます。



鴟尾 搬入

屋根工事

初重・二重の屋根には、合わせて約10万枚の瓦が葺き上げられています。屋根荷重の軽減を図るため平瓦下には葺土を用いずに木製の棧を敷き込む「空葺き」の方法で葺いています。



軒平瓦製作
(上段：復原瓦・下段：出土瓦)



二重 平瓦葺



二重 軒丸瓦葺



二重 隅棟

